



第172回 芥川賞

『DТОPIA(デートピア)』 安堂 ホセ 著

舞台は南太平洋の楽園、ボラ・ボラ島。ひとりの女性を巡り、世界各国 10 人の男たちが繰り広げる恋愛サバイバル…やがてショーの視聴者たちは「自分だけの DТОPIA(デートピア)を編集し始め、楽園の時間は誇張する。人種も、性も、国境も。すべての“当たり前”が崩れ落ちる、新時代の傑作。

『ゲーテはすべてを言った』 鈴木 結生 著

高名なゲーテ学者・博覧強記は一家団欒のディナーで、彼の知らないゲーテの名言と出会う。ティー・バッグのタグに書かれたその言葉を求める旅の先に、行き着いた場所は……。若き才能が描く、アカデミック冒険譚！

第172回 直木賞

第172回 直木賞 『藍を継ぐ海』 伊与原 新 著

数百年先に帰ってくるかもしれない。懐かしい、この浜辺に——。なんとかウミガメの卵を孵化させ、自力で育てようとする徳島の中学生の女の子。老いた父親のために隕石を拾った場所を偽る北海道の身重の女性。山口の島で、萩焼に絶妙な色味を出すという伝説の土を探す元カメラマンの男——。人間の生をはるかに超える時の流れを見据えた、科学だけが気づかせてくれる大切な未来。きらめく全五篇。

新刊情報

本屋大賞

2025 年 本屋大賞 『カフネ』 阿部 暁子 著

「おいしい」と泣くことから再生は始まる。

人生のお守りになる一食が繋ぐ愛の物語。

その場に倒れた野宮薫子にかけられたのは「食事はちゃんと摂れていますか」という想像もしなかった小野寺せつなの言葉だった。食べることは生きること。二人の「家事代行」が会おう人々の暮らしを整え、そして心を救っていく。

(カフネ…愛する人の紙に指を通す仕草)

話題の本

話題の本 『人間標本』 湊 かなえ

蝶が恋しい。蝶のことだけを考えながら生きていきたい。蝶の目に映る世界を欲した私は、ある日天啓を受ける。あの美しい少年たちは蝶なのだ。その輝きは標本になっても色あせることはない。

五体目の標本が完成した時には大きな達成感を得たが、再び飢餓感が膨れ上がる。今こそ最高傑作を完成させるべきだ。果たしてそれは誰の標本か。——幼い時からその成長を目に焼き付けてきた息子の姿もまた、蝶として私の目に映ったのだった。

イヤミスの女王、さらなる覚醒。15 周年記念書下ろし作品。

新刊情報

寄贈 『みをつくし料理帖』 シリーズ (文庫本)

江戸に下ってきた大坂出身の料理人・湊(みお)が、東西の味の好みや水の違いに苦心しつつも徐々に道を切り拓き、料理を通じて人を幸せにしていこう姿を描く。作中には江戸の食事情が盛り込まれ、作中に登場する料理を著者が試行錯誤を重ねつつ実際に作ったレシピを「湊の料理帖」と題し巻末に収録している。